

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：田原
広報部：石渡・広畑・河原
仲田・山本・朝日
園田・高尾・加茂
事務局：奥田・岡崎



庚寅
No.82

年頭所感

明けない夜はない

会長 宮後 浩

あけましておめでとうございます。

厳しい社会情勢のまま新しい年を迎えることになりましたが、振り返れば、私が独立した頃にもオイルショックというのがあり、仕事をいただくために、「ただでもいいですから仕事をさせてください。」とお願いに回り、業務拡大をしてきたことを考えれば、いつの時代でも、仕事に対する姿勢は同じだと思います。

個人的なことで恐縮ですが、長年お世話になったクラブ、大学など、今期をもって、いったん辞めさせていただくつもりです。

というのも、原点に立ち戻り、自分に何ができるのか、何を求められているのか、そしてこれから何をすべきか、を見直したいと思っています。さらに新しい出会いを求めて行きたいと・・・。

長い経験と実績はもちろん大変重要であることは、私自身経験主義ですから十分承知しているつもりですが、その経験や実績が高慢になり、その上にあぐらをかいているのではないだろうか、時代の変化に対応して、本当に求められていることに応えているのだろうか。不況なときこそ冷静に反省や、今後の方針の検討ができるいい時期だと思います。

もちろん一人で考えるより、多くの人とのコミュニケーションをとり、広い視野をもって、自分の進むべき道を見つけないものは、

「明けない夜はない」といわれます、皆さん、一人で悩まないでOISを活用し、明けたときの準備をしておきましょう！

2010 新年会



今年「お初天神」で

2010年の新年会が、1月10日にお初天神で行われました。OISの交流の場に参加するのは、一昨年に検定試験に合格し、証書伝達式に参加して以来のことでしたので、約2年前にお会いした方々とすまく接することができるかと、当日は正直緊張していました。

いざ皆さんとお会いすると、気さくに話しかけてくださった

のでほっとしました。「参加してくれてありがとう」と声をかけていただき、歓迎していただけたことは、とてもうれしく思いました。

日頃、ショッピングや食事の場として利用している梅田の真ん中、意外なところに情緒漂う露天神社があることに驚いたことも、今回参加したからこそその発見だと思います。「今はビルが立ち並ぶ都会。昔はもっと空が開けて、風が通ったのかな」と、二人で想像してみたりしました。

新春の緊張感漂う拝殿でご祈祷を受けたあとはお初天神通りにある「たよし」で食事会があり、おいしい料理を食べながら、学生には分からないインテリア業界の話なども聞くことができ、とても勉強になりました。目上の方々からお話を伺うことは、今、私たちの目前にある就職活動にも生かされる経験だと思います。「不景気」という厳しい社会事情を乗り越えていかなければならないということ、そのためには・・・、と熱く語っていただいたお話を心に留め、自身の将来を開拓していきたいと思います。

業界のお話、人生の為になるお話、笑ってしまうようなおもしろいお話も伺えるOISの行事に、次の機会も是非参加したいと思えます。本当にありがとうございました。(記・西川 友佳・松本 あゆみ)



青年部企画 親睦会企画
Designer's Bar+忘年会
 OIS

12月4日(金)、青年部主催の「第3回デザイナーズバー」+「忘年会」が開催されました。デザイナーズバーも回を重ねるごとに参加者が増え、特に、昨年の試験に合格した新会員がリピーターとして参加してくれる姿は、やはり嬉しいものですね。

今回は忘年会も兼ねたため、参加者は40人以上になりました。会場は、奥田局長おすすめの「桃太郎」、今までとは違った雰囲気の中で、今まで以上に盛り上がりました。

桃太郎は本来お好み焼き・鉄板焼の店ですが、今回の企画のために特別メニューが用意されていました。おでん、ブルコギ、マリネ、ぶり大根、竜田あげ、しょうが風味の炊き込みご飯などなど…。最後にはおぜんざいも！！料理もアルコール類も豊富で、食べきれない、飲みきれないほどの量でした。

人気のお店のため、次の予約が入っていたので、6時半から8時半までの2時間という制限の中、出てくるお料理を勢よくいただくながら、ビンゴゲームが始まりました。はずれなしという豪華版です。桃太郎のスタッフにもカードが配られ、店長さんが上位ピン



足田顧問の発声で乾杯！



賞品を受け取った園田さん

ゴで大盛り上がり！最後に奥田局長から事遊展やデザイナーズバーなど、2009年の働きに対するMVP賞が園田さんに贈られ、サプライズに沸き立ちました。少々時間が足りないなあと思うほど、まだまだ食べたりない、話したりない！ついにお好み焼きは食べずじまいでした。

第4回のバー開催も2月12日(金)と決まっております、次はどんな趣向を凝らして盛り上がるのか、楽しみに参加される方も多いと思います。仕事や普段の友人以外の顔馴染みさん…ここに来たら会える・語れる仲間。気負いなく集まれる、そんな場所にこれからも期待したいと思います。

(記・加茂 多紀子)

今年は、コラムギャラリーで開催された「事遊展」

2009.11.26日(木)~28日(土)

どんなものを出そうか悩んでいました。「事遊」ってどんなのを表すのだろう？と。正直、私は「事遊」の意味をはっきり知らなかったのが本音です。「事」=仕事、「遊」=趣味、遊び、を意味します。実際作ろうと決めてからも長い時間悩んでいました。おいおい！こんな表現でいいのか？と、デザインしながら悩んだり、本当にこれは「事遊」といいいいのか？など、正直悩みまくりで、理事の方々やいろんな人に相談していたのを思い出します。

「事・遊」を考えた時に思ったのは「自分らしさの表現」だということです。仕事だから～とか、遊ぶで～とかには関係なく、皆が皆、自分の好きな事をして表現しているんだ～と思ったら、もともとあったデザインを固めて最終的に3DCGで作ろうと決めてからは、案外スムーズに進みました。

2点出品したうちの「ヨルノビジュツカン」は、少しネタをばらしめると、背景の額には自分の作品を入れて作っ



事遊展会場のようす

ています。

さて事遊展が始まってみると、OISの皆さんが仕事の作品から趣味の作品まで、写真、プレゼンボード、家具、テーブルコーディネート、グラフィックなどなど、幅広いジャンルの作品が、ずらりと展示されました！！理事・会員の方はもちろんのことながら、本年度実施された「陶芸教室」や「エコアートづくり」の作品も展示され、にぎやかな会場となりました。作品のジャンル、バラエティーが広いせいか、見る方もワクワクします。

皆さん、来年は一緒に事遊展に、展示してみませんか？「俺、恥ずかしいから」、「私、作品ないから」、そんなの間系ありません！1人でも多くの人に見てもらえる環境があるというのは、スゴク大事だと思います。

また、いろんな人の作品を見るというのは刺激になり自分自身奮い立たせると思っています。若いから、というのは死語かもしれませんが、若いうちに何か見えるってほんとスゴイことです。そう感じた事遊展でした。

『ヨルノビジュツカン』



(記・園田 寛明)

空間展2009



今年の「日本の空間デザイン展2009」は天神橋筋6丁目にある「大阪市住まい情報センター8階“大阪くらしの今昔館”企画展示室」で行われました。空間展はUSD-0(大阪デザイン団体連合機構)に加盟するうちの5団体で構成・出展されています。

OISは今回が2回目の参加で、事遊展に展示した「事」部門のパネルを中心として、ブースをつくりました。新理事の協力もあり、前回に比べ、多数の作品を展示することができました。

同時開催のフォーラムは宣伝不足で聴衆が集まらず中止という結果に終わりましたが、来場者は会期6日間(12月2日~7日)で700名を超えました。場所を変更した効果だろうと思われませんが、年末の忙しい時期にもかかわらず、大勢の人に作品を見ていただいたことは、たいへん嬉しいことだといえるのではないのでしょうか。



OISブース

篆刻教室 初めての篆刻にワクワク

中国の石の工芸文化にはとても興味深いものがあり、姿美しい石に美しい文字を彫る篆刻に憧れていました。篆刻は、単に字を彫ることではなく、書と彫刻の融合した工芸芸術とされています。主に篆書という書体を石面に彫り込むことから由来していますが、歴史を経て字体や図柄も多種あります。彫る技術、選ぶ言葉、字体人柄で、風格品格の違いが現れ、文人の趣味とされています。本講座の講師をしていただいたOIS宮後会長は、趣味が高じて日展に入選された作家でもあります。

11月27日、平日の夜にも関わらず14人が集まり、興味の広さに驚きました。自ら作られた字体資料をもとに、明るく丁寧な説明を受け、皆は恐る恐る石に印刀を入れていきました。前もって下書きをリクエストし、書いてもらうこともでき、また自由に彫る人もありました。柔らかい石ですが、結構力がいらいます。小さい面がどんどん大きく見えてきて果てしなく広がるような気がし、



田原さんの作品「妙」

ひたすらコリコリと彫っていきました。せっかくの下書き線もわずかのことで切れて、違う線に変わったりして、楽しいけれど難しさをヒシヒシと感じました。力の入れ具合で、石が割れてしまうことがあり、私の石も手直しの段階で割れてしまい、また一からとなりました。彫り終わった後、枠にわざと欠けを入れて、古び



順番に手直しを受けているようす

た風情を出して完成です。もちろん欠けを入れない場合もあります。最初の1個が出来上がると、次に小さいサイズのそれぞれ好みの石を選び、2つ目にかかる人もありました。

予定時間を過ぎても、皆、先生に手直しをしてもらいたく、どんどん時間延長になりました。先生も気長にお付き合いただいて感謝です。お陰様で素敵な印ができ、ずっと大事に使っていきたいと思います。(記・田原 妙子)

歴史建築探訪「唐招提寺と薬師寺」を訪ねて



薬師寺 (撮影：渡辺廣史)

東京勤務になって6年目になりますが、場所が離れていると、案内を頂いて、興味があっても参加しにくいのが現実です。

しかし今回は、非常にタイミングが良かったですね。パースの宮後師匠の「篆刻教室」(11月27日実施)と11月29日の「和風建築講座」の両方に参加できる機会を得ました。

篆刻教室では宮後師匠の元気な顔を拝顔でき、また、電話の声だけで想像の姿だった事務局の岡崎さんにもお目にかかることができました。二人とも実に笑顔が似合うお人柄です。ビジュアル的にはまったく異なりますが・・・

話がどんどん筋道から離れて行くような気がします。とりあえず軌道修正をしましょう。

明日香路は大変久しぶりで、どちらのお寺も小学校の修学旅行以来と記憶しています。

近鉄奈良線に乗ってしばらくして車窓からの風景を眺めると、視界が広々としているではありませんが、発見です。どんどん標高が高くなるのがわかります。

奈良盆地は、奈良県北西部に位置する標高100メートル以下

の断層盆地だということ、昔学校で習ったのは記憶していますが、事実として体感したのは生れて初めてです。随分得した気持ちですね。

そんなことを隣の席のおばちゃんに話すと笑われてしまいました。天気もよし、ほのぼの出来るスタートでした。

西ノ京駅に降り立ち目的地までの道すがら、寺の塀や民家等を眺めカメラを向けていると、徐々に参加の会員の方も増え、声を掛けられながら唐招提寺の山門にたどり着きました。

眼前に現れた唐招提寺は美しい、いにしへは朱に彩られた姿も今は古色が風景に溶け込み、更に晩秋の彩錦と見事に対比している。穏やかな日本の風景に「なじむ」佇まいであると感じるとともに、大陸の寺の形体がシンボリックであり、支える大地・風景の多くがシンボリックと感ずることは考えすぎでしょうか。

大陸の東西文化交流や建築の歴史的考察とはかけ離れますが、自然の違いの中で体感するものがあると私は感じます。

対して薬師寺は仏閣のほとんどが再現されたもので、昔の姿を再現したものと聞きます。歴史をへて鮮明な姿・彩が、はるか彼方にどんな姿になるのが、思いを馳せながら筆を休めたいと思います。取り留めの無い文体で恐縮します。

参加会員の皆様、大変楽しい有意義な一日でした。今年4月から大阪本店に復帰です。価値ある活動が今後も続き、さらに発展できるよう、微力ながら協力させていただきます。

(記・渡辺 廣史[コウジ])



唐招提寺



CAMERA ONEPOINT ADVICE

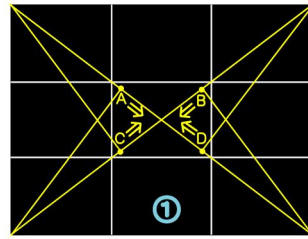
奥田 忠彦

図面は第三角法・写真は三分割法

①図の黄色い線は、写真フレームの対角線に対し異なるコーナーから垂線をおろしたもので、この交点が良い構図の写真に大いに関係があります。

A・B・C・Dのいずれかの位置に主題を置き、その向き、動きを矢印方向に向かせることにより、センスのある、バランスのとれた写真になります。菜の花畑の写真②も悪くはありませんが、③は主体がD付近にありA方向を向いていますので、より良い構図の写真といえます。

これとよく似た構図法に「三分割法」というのがあります。①図の白い線が、三分割法による構図構成をしやすくするための補助線で、若干異なりますが、交点はほぼ同じ位置にあるといえますので、



DISP ボタン
機種により異なる

以後、三分割法について説明します。

三分割法の原理および効果は、被写体の位置をそれぞれの直線やその交点に合わせて位置を揃え、2本の横線のいずれかの上に地平線、水平線を配置すること、または垂直・水平の直線状の要素をその線上に置くことであり、三分割法に従うことにより、画面の中心に被写体を置く、いわゆる「日の丸構図」や、水平線が「写真を真っ二つに分断してしまう」ことを避けるのが目的です。

④は典型的な日の丸構図写真ですが、⑤は噴水を右から1/3の位置に、吹き出し口をDポイントに置くことにより、また、⑥は上下を真っ二つに分断していますが、⑦のように1/3の位置にすることにより、画面が安定しています。

この線は、三分割法のみならず、インテリア設計士の皆さんの場合、床や天井を水平に、柱を垂直に写すときにも利用できます。三分割の線は、デジカメのDISP. ボタンを操作するとディスプレイに表示されますので、大いに活用し、良い構図の写真を撮ってください。次の機会には、「室内写真」の上手な構図法についてお話ししましょう。



京都府インテリア設計士協会
KIS企画

研修バスツアー 赤穂緞通と田淵記念館

11月15日のKIS主催のバスツアー「赤穂緞通と田淵記念館」に参加しました。OISからも9名が参加し総勢31名です。

兵庫県赤穂市といえば、何はさておいても『忠臣蔵四十七義士』が思い起こされますが『赤穂の塩』『赤穂緞通』も古くから有名です。

1,000円高速料で心配された渋滞もなくスムーズに第1目的地に到着後、一行は2班に別れ、OIS班は花岳寺へ……忠臣蔵でお馴染み赤穂藩主浅野家と赤穂浪士四十七人の菩提寺となっています。

その後は日本三大緞通の一つとされる赤穂緞通の実演を見学すべく加里屋工房へ。残念ながら機械化生産と技術伝承が困難なため、現在では市民団体である『赤穂緞通を伝承する会』の方々が保存と発展に取り組まれています。私も、この美しい文



加里屋工房

様と色合いの緞通に触れてみましたが、綿100%の肌触りの良さに驚かされました。

見学後、一行は赤穂パークホテルのレストランへ移動、豪華な昼食を楽しみながら談笑にも花が咲きました。

ほど良い気分になり午後の部の赤穂市立田淵記念館へ。この記念館は、江戸時代前期から「川口屋」の称号で塩田、塩問屋を営み塩田王といわれる「田淵家」から美術品・古文書等の寄贈を受け、それらを展示するために平成9年に建設されたものです。寄贈された美術品は、日本画、書、茶道具、婚礼道具など多岐にわたりますが、この日は「一朝廷に認められた赤穂の絵師―法橋長安周得」展が行われていました。

また、隣接する一般非公開の「田淵庭園」は国の名勝に指定されるほどの名庭で、歴代当主が茶の湯をたしなみ普請を重ねているため、一代で完成したものととは違う趣があり、「わび・さび」の風情が漂う数寄屋の庭といえます。

こうしてKISバスツアーを終えましたが、短時間に各所を見学し充実した貴重な一日で、次回が待ち遠しいと思います。

(記・朝日 勝彦)



赤穂浪士ゆかりの花岳寺



田淵庭園の茶室